

教師ノート

週課	第二年 第一二課 第一週
単元	クリスマス
テーマ	キリスト降誕の備え
タイトル	ザカリヤとエリサベツ
テキスト	ルカ1:5-25、57-80
参照箇所	イザヤ40:3-5、マラキ4:5-6、マタイ3:1-17、マルコ1:1-15、ヨハネ1:15-39
暗唱聖句(教会で使用している聖書訳を記入して下さい)	マルコ1:3

AG 日曜学校教案参照箇所

小学科下級2巻-主題2-課1 幼稚科2巻-主題2-課1

□導入

例1: 神さまは、いつごろから人間を罪から救う計画をたてていらっしゃったか知っていますか？ 私たちも何かやりたいことがあったら、計画をたてて、少しずつ準備をしていきますね。神さまは、どんな風に、イエスさまをこの世に遣わす準備を始めてくださったのでしょうか？

例2: いよいよアドベント(待降節)が始まります。教会では、イエスさまのお生まれを年ごとに深く感謝するために、クランツのろうそくに火をともしなどして備えます。今日は、神さまが約2千年前にイエスさまを遣わしになる前に、どんな準備をされたのかというお話をします。

□ポイント1 ザカリヤとエリサベツという老夫婦がいました(5-10節)

ザカリヤとエリサベツは敬虔な老夫婦でした。しかし、ふたりの間には子どもがなく、すでに年を取っていました。ザカリヤは祭司でしたので、律法を教えることや民を祝福するお祈りをするのが仕事でした。また祭司は、24の組に分かれていて、組ごとに1週間の当番でエルサレム神殿務め(動物のいけにえ・穀物のささげ物など)をしました。ザカリヤの組が当番のときに、香をたく役が、クジによって彼に割り当てられました。香は祭司によって神殿の朝と夕の礼拝でたかれました。

☞ヘロデ: ここでは、ヘロデ大王のことで、BC37年からAD4年までユダヤの国を統治しました。後に幼児であったイエスを殺そうとしました(マタイ2章)。

□ポイント2 ザカリヤに御使いのお告げがあり、エリサベツはみごもりました(11-25節)

「大ぜいの民」が集まる午後3時の祈りの時間に、ザカリヤは香をたく役をするため聖所の中に入りました。聖所に入れるのは香をたく祭司1人だけで、「香壇」は聖所と至聖所の間幕の前にありました。ここで登場するガブリエルは、ダニエル書8-9章にも出てくる天使です。御使いは、ザカリヤの妻エリサベツが男の子を生むと告げます。ヨハネという名は「主は恵み深い(God has been gracious)」の意味です。ヨハネは、神に聖別された人です。救いの歴史において重要な役割をはたします。それは、酒を一切飲まず(レビ10:9、士師記13:14)、救いに関する聖霊の賜物を、生まれる前から受けていました(イザヤ49:5)。彼の使命は、やがて来る主の日に先立ってイスラエルを神に立ち返らせ、整えられた民を主のために用意することです(この時代イスラエルの民の心は神から遠く離れていました)。「エリヤの霊と力」については、Ⅱ列王記2:9-15、マラキ4:5-6を読んでください。

ザカリヤにとって、御使いのことばは、確信を持つためには十分ではありませんでした。彼は、自分も妻も年をとりすぎているので、子どもをもうけるのは不可能だと思ったのです。しかしそれは、神の使いであるガブリエルに対する不信、ひいては神に対する不信仰でした。知識と理性が邪魔をして、純粋な信仰がもてなかったのです。彼がものをいえなくなったのは—(1)不信にたいする罰、(2)また不信を乗り越えるための試練、(3)そして適切なときが来るまで他の人にむやみにこの件を知らせないための手

段一と考えられます。やがて外にいた人々は心配しはじめました。ザカリヤは礼拝の終わりに、人々の前に出てきて終わりの祝祷をするはずなのに、なかなか出てこないからです。ついにザカリヤが姿を現したとき、人々は神の顕現があったにちがいないと推察しました。宮での奉仕が終わると、ザカリヤは家に帰り、やがて妻は妊娠しました(注:マリヤの場合とは違い、ザカリヤとエリサベツの夫婦の関係による妊娠)。エリサベツは高齢だったので、彼女が妊娠したと言ってもだれも信じないでしょう。またその間、無理をして動いても危ないので、誰が見ても妊娠したことが分かるようになるまで、家にこもっていました。

□ポイント3 救い主がいっしょる前に準備をするバプテスマのヨハネが生まれました(57-80節)

エリサベツにとって、奇跡的な懐妊のよろこびは、安全な出産を終えて最高潮に達したことでしょう。律法を遵守し、ヨハネは8日目に割礼をうけました(創世記17:11-12、レビ記12:3)。割礼の日が名付けの日となるが多かったようです。近所の人々や親戚は、弱っているザカリヤを励まそうとして、子どもに彼の名前をつけるように勧めたのでしょう。しかしエリサベツはそれはできないと主張しました。彼女は、この子に神の指定した名前をつけなければならないと信じていました。名前はその人の人生をあらわすものですから、神の定めた人生を歩むために、その名前をつけることは重要だったのです。そこで人々はザカリヤに、何と言う名前をつけるつもりかと聞いてみました。ザカリヤはかつて御使いの言葉に不信を持って応えましたが、この時は確信を持って「彼の名はヨハネ」と書きました。周りの人々は、理由が分からないので、ザカリヤとエリサベツの力強い主張に驚いたことでしょう。御使いのことばが、実現となったとき、ザカリヤはものと言えない状態(不信の罰)から解放されました。そこでザカリヤは、新たに得た声をもって、神をほめたたえました。まったく妊娠するはずのない人が子どもを生んだこと、ザカリヤが即座にしゃべれるようになったことなどを見た人たちは、神が生きてはたらかれていることを感じ、ただ神を恐れました。そしてそれは、ユダヤの山地全体へとロコミで伝わっていきました。人々は、このようにして生まれた子はどんな運命を生きるのだろうかと思い巡らしました。ザカリヤが話せるようになったときの賛美は物語から独立して68節以降に記されています。

- ☞ ザカリヤの賛歌の内容: 神さまが約束してくださった救いの計画を信じる信仰、救い・神のあわれみへの感謝、ヨハネの役割について(来るべきメシヤのために準備をする・神の恵みとあわれみを説き罪の赦しを宣言する)など。69節「救いの角」の「角」は旧約では強さやパワーを意味します(第二サムエル記2:3、詩篇132:17)。

□結論 神さまは、ザカリヤとエリサベツを通して、救い主イエスさまの誕生の準備をされました

□適用 (聞き手に最もふさわしい適用が与えられるように祈りましょう)

もうすぐクリスマスです。あなたの心は、イエスさまをお迎えする準備ができていますか?この1ヶ月、私たちの罪のために生まれてくださったイエスさまに感謝しながらすごしましょう。ヨハネは、「救い主が来られようとしています。罪を悔い改めて、イエスさまにお会いする準備をしなさい。」と伝える人になりました。あなたも、心の中に残っている罪を告白して、キレイな心で、もう一度イエスさまをお迎えしましょう。あなたの心の中の、真ん中の部屋にイエスさまをお迎えできるように、余計なものは片付けましょう(ゲーム、洋服、兄弟ゲンカ、悪口などで部屋がちらかっていませんか?)。心の真ん中にイエスさまを向かえ、自己中心から神さま中心になる準備をしていきましょう。クリスマスまで毎日お祈りをしよう!